



森のなかま

2024年 2月号

NO. 188 (継続333号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【自然観察部会主催 丹沢大山自然再生委員会共催 第106回森林探訪】 「初冬の表丹沢・ヤビツ峠周辺をめぐる」

日時：令和5年12月2日(土) 晴れ

参加者：46名、看護師：青木様

インストラクター：L 西岡一郎⑭、内野ミドリ⑨、松永廣⑪、小池哉⑫、牧石稔⑭、山口正志⑭、
河西静夫⑮、小池宗子⑰

コース概略：ヤビツ峠(集合)→岳ノ台→菩提峠→寺山富士見→ヤビツ峠→蓑毛バス停(ゴール)
距離約8km

(記 小池 哉⑫、写真 西岡 一郎⑭)

「頭の上のほうで光輝いている白い花は何ですか——」。参加者の一人からの声に班の全員が見上げました。羽毛状になったコボタンヅルの果実が陽の光を通して白い花のように輝いていたのでした。さっそく配布資料を広げてもらい、コボタンヅルは雌しべの花柱が長く伸びて残り、毛を密生させて羽毛状になるので、白い花のように見えたのですねと話をし、葉は葉の中軸から3つに分かれてさらに3裂する2回3出複葉であることをスケッチの絵で示し、このコースではよく見られることなどを説明しました——。

紅葉は残念ながらピークを過ぎてしまいましたが、集合場所であるヤビツ峠へ向かうバスは秦野駅から臨時便が何台も増発されていました。

全体のオリエンテーション後、6つの班に分かれ、班ごとに自己紹介や準備体操を行い「森林探訪」がスタートしました。



各班のリーダーがそれぞれ工夫を凝らして樹木や植物の特徴などを解説し、時には面白おかしく参加者と会話をしながら、名前の由来や不思議さ、それにまつわるエピソードなどを説明していきます。また、歴史や民話、伝承、文学、芸能ネタなどなんでもありのところが森林探訪の「醍醐味」であると思っています。

自分の班では、参加者に葉っぱのイメージを画用紙に描いてもらいました。鋸歯や側脈も描いてもらい、その絵と実際にブナの葉を見比べてもらい、どこが違っているかを発見してもらいました。また、大山など丹沢の山々が望める岳ノ台では、丹沢山地の生い立ちと丹沢には標高1000メートル超のピークが63あることを説明し、山の標高順位当てクイズを出したりして楽しみました。マユミについては、自分にとって定番の「女優・檀れい」の話もしました。

昼食場所の「パラグライダー滑走台」では、青空に飛び立つパラグライダーを見ながら、お腹も気分も「満腹」になったようでした。

今回の森林探訪では、参加者にはどんな「印象」と「思い出」を持ち帰ってもらうことができたでしょうか——。



柏木林道では、花が開いたリンドウを見て大喜びして写真を撮っていました。地面スレスレに花を咲かせるカンアオイの花を見ながら不思議そうに思っている様子でした。そして何より大歓声が上がったのは、目の

前に広がる午後の陽を通して赤色や黄色やオレンジ色に光り輝く紅葉の光景でした。

初冬の丹沢を、落葉した紅葉の名残りを踏みしめながら歩いた1日でした——。

《かながわ森林インストラクターの会 森林技術部会》 径路整備研修会

日時：令和5年12月24日(日) 9:00~15:00 曇りのち晴

場所：大野山トチヤの森班活動エリア

参加者：21名 水口⑨、國広⑭、鈴木⑭、西岡⑭、水野⑭、相澤⑮、石垣⑮、大森⑯、内田⑰、大谷⑰、小国⑰、田島⑰、野口⑰、藤田⑰、三浦⑰、森本⑰、柳沢⑰

講師：1班 岩田⑭、2班 斉藤⑬、滝澤⑤、3班 大橋⑪

(記 藤田 あずさ⑰、写真 斉藤 夏葉⑬)

里山や公園等の径路整備作業の依頼やその指導の要望に、インストラクターとして対応できる知識、技術を身に付けることを目的とし、「一人で作業でき、初心者にも実演(見本)も見せられる」レベルを目標とし、それを目指して実習しました。



冷え込んだ冬の朝9時に大野山トチヤの森に集合し、オリエンテーション、講義、体操を経て、3班に分かれて作業を開始しました。作業は丸太筋工と路肩補強の施工です。最初に手分けして道具や資材を作業地に運びます。班ごとに2mの横木を10本、1mの杭を6本、60cmの杭を8本、作業地は傾斜地なので、足元に注意して運びました。

いよいよ施工となります。まず

は丸太筋工を班で2つ設置します。今回の研修では山を流れ下る水路となって削られた箇所へ土留めとして設置するというので、設置位置を決めました。杭を打つので、付近の木の根なども考慮しました。

次に唐鍬で幅30~40cm程度の平らな部分を作り、横木を置いて土を切り盛りして水平になるように調整します。横木には、チョーク等で杭を打つ位置に印をつけます。この印の位置に1mの杭をかけやを使ってまっすぐに打ち込みます。かけやはてこの原理を上手に使うと筋力のない人でも効率よく打ち込むことができます。



杭を 3 本打ち込んだら、横木の下に番線を入れてシノを使って杭と横木を結束します。番線は杭の中央部でクロスするように注意し、しっかり締めます。番線の締め方もコツが必要です。横木を計 3 本に杭を 3 本全て結束して杭のはみ出た部分を切断して整え丸太筋工が完成しました。初めてのメンバーも多かったので 1 つめは、自由な感じの見た目になっていましたが、2 つめでは皆、上達し、整った形で施工できたのではないのでしょうか。



富士山を眺めながらの昼食休憩を挟んで、午後は路肩補強を実践しました。今回は径路の谷側の崩れを防止し、径路であることを明確にするために役立つ路肩材を設置します。

まず、径路幅を定めて山側の拡幅も含めて径路を見直し、谷川の路肩の位置を決め、横木が路面にぴったりと置けるように、路面の傾斜及び凸凹を唐鍬で調整しました。

次に杭が有効に働くかどうかを見定め、杭の位置・路肩材の位置を決め、路肩材を配置し、杭打ちをします。杭の高さは横木と同じ高さとし、杭と横木はカスガイを使用して固定します。カスガイは杭頭に割れが生じないように年輪の中心は避け、2 本を 90 度程度に開くように打ち込みます。まっすぐに打ち込まないとカスガイが開いてしまうので、注意が必要でした。



この要領で用意してあった 4 本の横木と杭を設置し、今回の研修は終了です。初めての作業でコツをつかむのが難しくもありましたが、一通りの施工作业について学ぶことができました。技術を身につけると自信をもって言えるようになるために、実践を継続し、より経験を重ねたいと思いました。



森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

わが国は木の国、森の国、森林率およそ68%で北欧諸国に次ぐ世界有数の森林国です。といっても千ヘクタール以上の森林面積を所有する国の順位では23位、決して森林面積が大きいわけではありません。ということは森林の材積量も他の国に比べてそれほど多いというわけでもないことになります。ロシアや米国のように国土面積の大きい国に比べれば当然のことです。米国の森林面積はわが国の12倍、ロシアに至っては36倍に達します。言いすぎるかもしれませんが森林国と自負するにはそれほど多くないわが国の森林資源をいかにうまく利用するかにかかっています。

わが国は戦後復興で木材需要が急増し木材不足が懸念されたことから広葉樹からなる雑木林や原野などにスギ、ヒノキなどの針葉樹が植林される拡大造林が行われました。当時、薪炭から石炭・石油等への化石燃料への転換もあり木炭生産量が減少し、薪炭の原料を提供する雑木林の必要性が減少した事も針葉樹林への転換の後押しをしました。

スギ、ヒノキなどの建築材として植林した樹木が順調に成長してきたにも関わらず、その後昭和39年の木材輸入の自由化により安価な外材が輸入されるようになったのです。それに伴い昭和30年に95%ほどあった木材自給率は平成12年には18%前後にまで落ち込んでしまったのです。

その後、公共建築物などへの木材の利用を促進する法律も制定され、学校や役場などの建築には地元で育った木を使用した木造が促進され、さらに脱炭素社会の実現に向けて一般の建築物への木材利用も促進されているのが現状です。そのようなこともあり令和2年時点で木材自給率は42%前後にまでになりました。しかし、森林伐採の際に出てくる林地残材などの年間発生量は800万トンに及びますがその利用率はわずか9%にとどまっています。二酸化炭素を吸収して育つ森林樹木は温暖化防止にも役立つことで林産物の利用が注目されている今日この頃ですが、林地残材も含めて余すところなく森林資源を利用する事が望まれます。

第55回 日本の森林は

(シリーズ掲載最終回となります)

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

木材の自給率が近年少しずつ上昇しているのが現状ですが、わが国の食料自給率も他の先進国などに比べて低く、最近の自給率は38%前後にとどまっていますし、それに加えて食品廃棄物については年間2500万トンを上回り、食品ロスは600万トンに及びます。これは私たち一人が毎日茶わん一杯の分のご飯を廃棄している事につながると言えます。

木材にしても食料となる野菜・果実、肉、乳製品などにしても、すべて水によって育てられています。これらの自給率が少なく輸入に頼っていることは水を輸入していることにもつながります。年間雨量の豊富なわが国は実は大量の水の輸入国なのです。自国のものを利用することで海外の山や畑の利用を海外の国に促し潤す事にも繋がります。

資源的にないものは輸入に頼らざるを得ませんが、栽培などで工夫しながら自国で手に入れることができるものを確保して自給率を上げることが必要のように思うのです。森林樹木にしても同じです。薪炭材などの広葉樹は伐採後には萌芽更新によって新たな若い林を造りだしますし、スギ、ヒノキなどの木は伐採後には植林することによって常に新たな若く活気のある森林が育ちます。

「木は伐らなければ育たない。そしてそれを利用しなければ山に元気は戻らない」と言えるでしょう。



(イラスト 林野庁：森林・林業白書より)

活動短信

今回の掲載はR5年10月30日からR5年11月12日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

2月(如月)(旧暦1月睦月)の

二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気 : 立春2/4 雨水2/19

旧暦の七十二候では、この季節から新年が始まります。

外からは梅が飛び込福茶哉 小林一茶

鳥こよみ: 梅、椿など冬の花を訪れるメジロ。鮮やかな黄緑色の羽毛と白く縁どられた目はよく目立ちます。舌の先はブラシ状で、花の蜜を上手に食べます。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日付: 令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 (公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研: 研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 箱根中学校 植林活動

日 令和5年10月30日(月) 8:00~12:00 晴れ

場 箱根町箱根字畑引山町有林

参 中学1学年36名 引率教員5名、多田校長

町 箱根町: 勝俣町長、古谷様

ス 勝俣林業: 4名(植栽苗、道具準備)

イ L野牛⑧、滝澤⑤、石原⑧、堀口⑩

箱根町では『神奈川県水源環境保全・再生市町村補助金』の活用事業として町有林に町民・議員による植栽を行っているが、本年度は箱根畑引山の道の駅に隣接する町有林に箱根中学校1年生による植栽が初めて行われた。

箱根町を挙げての事業であり箱根町町長の挨拶から開会式が始まった。

開会式では参加インストラクターより『森林の働き』『箱根の動植物について』『植栽について』の各テーマに沿って簡単なレクチャーを生徒達に行った。

箱根は2019年の台風19号により国道の土砂崩れや箱根登山鉄道の鉄橋の崩落など大きな災害に見舞われた。

参加した生徒達は当時小学校3年生で数日間学校が休校になるほどの災害だったことを記憶していた。土砂崩れを防ぐなど、森を健全に保つための最初の重要な活動が植栽であることを理解してもらった。

また、箱根は熊、鹿を含め多くの動植物が息息する場であることなど、自分たちの生活の場に自然が豊富にある生物多様性に長けた地区であることなどを伝えることができた。最後に植栽する樹種の説明や植栽方法の説明を行いスクールバス2台に分乗し植栽地に移動した。

現地では4班に分かれ5種240本の広葉樹の苗木を植栽し、苗木1本毎にメッセージを書いた木札を掛けた。事前に勝俣林業さんにより支柱の設置と林床の整備を行なわれていたため作業はスムーズに行うことができ、作業が早く終わった班は散策路を巡り自然観察を行うこともできた。



学校までの帰りのバスからは雪化粧をした富士山と芦ノ湖、紅葉した箱根の山々を堪能した。学校に戻り終了式では校長からの生徒へ植栽の意義など改めてお話いただいた。



生徒達からも楽しかったなどの感想もあり、短い時間であったが天気もよく充実した活動が行うことができた。

来年度以降も生徒たちによる植栽活動が継続されることを期待したい。

(記、写真 堀口 俊司⑩)

◆ 神奈川県内広域水道企業団様 間伐作業

日 令和5年11月2日(木) 12:45~15:30 晴れ

場 世附水源公有公社

参 大人14名

県 水源環境保全課 村松副技幹、黒田主事

イ L牧石⑭、上田⑩、角石⑮、高谷⑰

午前中、丹沢湖記念館にて水源環境保全課村松副技幹より講義を受け、午後より間伐活動が行なわれた。13時、世附水源公有公社に到着後参加者全員で記念撮影、インストラクター紹介、体操を実施したのち参加者14名は3班に分かれ用具を装着し間伐場所に移動。間伐対象木



は事前に選木された胸高直径16cm～21cm、樹高約22m前後のスギ又はヒノキ。班ごとに間伐手順の説明、伐倒方向の決定、安全待避場所の確認後、スリング・滑車の

取り付、ロープがけを行ったのち、チョークで線を引き、切る高さ、深さ、角度を表示し受け口を切った。受け口の斜め切りは水平方向と違い鋸が進みにくいため、交替で作業を行った。追い口を切る前にロープ引き担当、追い口切り担当に分かれた。ツルを厚めに残した時点で鋸挽きをやめ、一斉にロープを引くと枝掛かりもあったが、決めた伐倒方向に倒れ林内に響く大きな音を発した。枝払い、玉切り、整理を行い15時30分無事間伐活動終了した。
(記、写真 牧石 稔⑭)



◆ 民家の学校 間伐作業

日 令和5年11月5日(日) 8:30～12:10 晴れ
場 小田原市いこいの森
参 民家の学校 受講生19名、スタッフ15名、
ス 小田原森林組合：佐藤様
イ L堀口⑯、真貝⑰

民家の学校は『日本の民家を次代へ引き継ぐ』ことを理念として活動している団体で、今回の間伐体験は森林環境や林業についての学びの一環として参加者は九州など遠方からも多くの方が参加されていました。

前日には辻村植物園での森林環境に関する講義や小田原市森林組合によるチェーンソーでの間伐見学、製材所での丸太を板にする作業の見学をしました。

間伐体験を行う受講生19名を3班に分け、小田原市森林組合の担当より森林が持つ機能や林業の持つ課題、間伐作業の目的、手法、安全面について説明がされました。

森林組合にて事前に選木されているスギ、ヒノキを各班1本ずつ途中でメンバー交代しつつ間伐を実施。樹齢50年を超える木のため大きな地響きとともに倒れ、迫力もあり受講生からは大きな拍手と歓声が上がりました。玉切り作業は森林組合で行うため、枝払いを行いお土産にコースターと鍋敷きを各自作成。

作業時間は2時間取ってあったため時間に余裕を持って活動ができました。前日にチェーンソーによる間伐見学も行っていましたが、自分自身で間伐を行うことにより貴重な体験をすることができたと高評価でした。

(記 堀口 俊司⑯)

◆ 秋の自然観察会 ドングリに親しむ@こどもの国
日 令和5年11月6日(月) 13:00～15:00 晴れ
場 こどもの国(横浜市青葉区奈良町)
参 12名(大人10名 小人2名)
ス (公財)森林文化協会 関岡様、こどもの国 岩崎様
イ 小池⑰

長津田駅からこどもの国へ向かう電車の車内には、牧場や牛の絵が描いてあり、これから始まるワクワク感を誘います。

この日の参加者は、母親の抱っこ紐の中の乳児、年長の女兒からシニアまで幅広い年齢層です。まず、世界には約600種類のどんぐりがあると聞いて、全員驚きました。日本には約20種類あり、知っているどんぐりの名前があると、「ああ!」とか「知ってる!」と反応がありました。これで参加者の気持ちをほぐし、どんぐりツアーは出発準備OKです。



こどもの国の広大な敷地は、自然林を最大限に残し、急坂もあり、半周しても2時間かかります。出発してすぐ、マテバシイの大粒の大群が参加者を待っていました。こどもの国には、木の実はずべて拾わず、「一つは森の生き物たちのために、次の一つは新しい木になるために、次の一つは木の実拾いを楽しみにしている

別のこどものために残しておきましょう」というお約束がありますが、この日は特別にいくら拾ってもOKというお許しが出ました。その後も、クヌギ、シラカシ、コナラの堅果が(大きさでなく)シャベルですくえるほど落ちていて参加者を楽しませてくれました。

どんぐりの花を見たことがありますか?という問いかけには全員首を傾げ、殻斗の違いや花柱の形にも興味を持っていただきました。クヌギの殻斗を王様の冠のようだと表現するなど、童心にかえって楽しんでいる様子でした。

園内のナラ枯れやハイロチョッキリの話にも耳を傾けてくださり、山に彩を添えているゴンズイやムラサキシキブにもカメラを向けていました。休憩時には、ムクロジの実を透明のボトルに入れて振り、つかの間のマジックショーにしました。ムクロジの実がティーポットに見えますか?と聞いたところ、5歳か6歳の女兒が「見える～!」と言ってくれた時は、大人と一緒に急坂を歩き、真剣に案



内を聞いてくれたんだととても嬉しくなりました。

園内で唯一不作のスタジイは、事前に現物を準備していき、どんぐりには豊作不作の年があることをお話ししました。

♪ どんぐり ころころ ないたら なかよしリス
がとんできて
おちばにくるんで おんぶして いそいで お山へ
つれてった ♪

上記の歌詞は、童謡どんぐりころころの幻の3番です。ツアー終盤に、歩きながらみんなで、どんぐりころころを3番まで歌いました。すると、抱っこ紐の乳児も喜んでご機嫌だったそうです。ゴールの辺りには10月桜が白い花をつけ、カツラ並木の黄色い葉の甘い香りが鼻をくすぐりました。

(記 小池 宗子¹⁷、写真 森林文化協会様提供)

◆ 環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～
「水の中の生き物ウォッチング」

日 令和5年11月6日(月) 8:50～12:25 晴れ
場 相模原市立夢の丘小学校(近隣の川、教室)
参 小学3年生58名、教師2名
イ L井出¹、足立⁴、内野⁹、谷川¹¹、石垣¹⁵、
小国¹⁷、三浦¹⁷

『夢の丘小学校』は平成14年に開校した比較的新しい学校です。オープンスペースや各教室の廊下側の壁がなかったりなど、新しいデザインを取り入れた開放的な空間で子供たちは学んでいます。

環境教室の実施場所は学校近くにある相模原水系の鳩川。市街地を流れる川ですが、採取場所は地元の方々により親水エリアとして整備されています。

1. 現地での活動内容

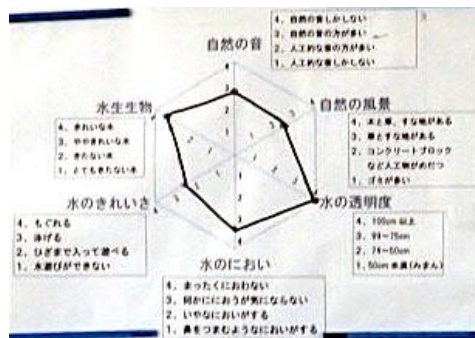
- ① 水生生物の採取：手網やタモ網を用いて川の中で生物を採取。
- ② 五感を使った水辺調査：自然の音や風景、水のおい、水生生物の生息状況など、水辺に係る6項目の指標についてそれぞれ4段階で判定。

- 自然の音：静かに音を聞く(水辺のやすらぎ感)
- 自然の風景：周囲の様子を観察(水辺のうるおい)
- 水の透明度：水の見え目のきれいさ調査(透視度計)
- 水のおい：水のおいを嗅ぐ(水辺の親しみ)
- 水のきれいさ：CODパケットで測定
- 水生生物：生物のすみかとしての水辺の良さを調査

2. 採取した生き物を学校に持ち帰り観察・評価

- ① 採取した生き物の抽出と観察(ヒガナガカワトビケラなどの水生昆虫、カワムツなどの魚類、ヌカエビなどのエビ類、その他多くの生物を観察することができた。)

- ② 五感を使った水辺調査のまとめ(各判定結果を六角チャートで表し評価を行った。)



五感を使った水辺調査の六角チャート

3. 環境教室を振り返って

本授業で身近な川にも多くの生き物がいることが実感でき、生き物に対する興味・関心がよりわいたのではないかと思います。また今回初めて、五感を使った水辺調査を行いました。「自然の音」や「自然の風景」などは若干低い値でしたが、「水の透明度」や「水生生物」などの項目は値が高く、都市部を流れる川でも管理が良ければ親水広場として活用でき、豊かな生態系を維持できることが分かりました。

今回の学習を通して、川(自然)を守ることの大切さが理解できたのではないかと思います

(記、写真 井出 恒夫¹)

◆ ソニーグループ株式会社様

21世紀の森 環境保全活動

日 令和5年11月11日(土) 10:00~15:00 晴れ
場 県立21世紀の森
参 40名(大人35名 子ども5名)
県 武田様 星様
イ L上田⑩、長尾⑪、西出⑫、内田⑬、田島⑭、森本⑮

前日が悪天候であったため活動実施についての判断に時間がかかったが、天気予報の通り朝から好天になり、最高の活動日和になりました。予定時刻に参加者が全員そろったので運動広場で開会式を行い本日の活動内容について説明し、竹林整備によって環境改善にどのような効果があるか、竹の持つ特性などをとおして話をしました。また、森林館の展示物とおして森林の概要と森林の持つ水源涵養機能について班ごとにインストラクターから説明をしました。



午前中の作業はマダケ林の皆伐作業で各班決められたエリアの伐採を行いました。皆さんが想定していたような竹林とは様相が異なって少し

物足りなさを感じたかもしれませんが、手入れの行き届いていなかった竹林が見違えるほど整備された様子を見て満足感を味わっていただけたと思います。

午後は金太郎・どんぐりコースでグリーンウォッチングのプログラムを使っての自然観察を行いました。ウォッチングの対象物が多く時間内に終わらせるのがむつかしかったが森を構成する樹木との出会いに参加者の皆さんは興味を持ってくれたものと思います。



クラフトグループは枝打ちされた杉枝を使ったリースづくりに挑戦しました。自然素材のデコレーショングッズを飾りつけ時間内に完成

して持ち帰ることができました。

(記、写真 上田 啓二⑩)

◆ 東日本電信電話株式会社 神奈川事業部様

県立21世紀の森における森林保全活動

日 令和5年11月11日(土) 10:00~13:30
曇り時々わか雨
場 県立21世紀の森
参 43名
県 神奈川県水源環境保全課 廣川様 星様
イ L三浦⑰、上宮田⑱、久慈⑲、小国⑳、藤田㉑、森本㉒

平成27年に想いを込めて植樹された成長の森の無花粉杉112本の枝打ちを行いました。

前日の雨で露が残り杉の枝も水を含んでずっしりとした状態でした。開会式に小雨が落ちる場面があり、普段は見ることのできない森の持つ一面と澄んだ空気を感じました。

作業は5班に分かれインストラクターの説明を受けてからスタートし、作業の後半はエリア全体の仕上げを参加者全員で行いました。改めて作業の仕上がりを確認す



ることで、気が付かなかった視点が広がる様子が見られました。初参加が半数ほどでしたがスムーズな作業により予定より早く作業終了となりました。もっと枝打ちをしたいという様子の参加者とインストラクターで森の中で作業の振り返りを行い、装備していた用具を片付けた後は、班ごとに秋の森の自然観察や森林館の展示で学びを深めたりと更に森への理解を深める時間をもちました。

また後日、環境学習の一環としてご担当者さまより整備した杉の木のCO2吸収量を計算し、参加者のみなさまへ共有していただけたとのことでした。森の整備を通じて机上だけでは感じられないことを心にとめて、楽しん



でもらえたのではないかと思います。

(記 三浦 由香子⑰、

写真 東日本電信電話株式会社様より提供)

◆ アコム株式会社様 アコムの森・枝打ち作業

目 令和5年11月12日(日) 10:15~12:30 曇り
 場 県立21世紀の森
 参 28名
 県 県水源環境保全課 村松様、黒田様
 イ L 森本⑰、石垣⑮、小林⑯、高谷⑰

今回で4回目「アコムの森・枝打ち作業」の開催です。参加者の半数は初参加者であり、森林保全活動への理解促進が社内で根付いているように感じられます。

インストラクターは9時に現地集合し、現場下見と移動時の沢越え箇所安全経路確保&整備を実施しました。アコム様の到着後、駐車場下の広場で、開会挨拶/体操を行い、インストラクターがフォローしながらアコム様主導で装備道具を準備し、班ごとに現地へ移動しました。今回の活動場所は「H26成長の森エリア」の最上段でプチ登山感覚での移動でした。



枝打ちは足場の悪いなか、足場確保の仕方も含め枝打ち指導を行い、丁寧な作業を実施

いただきました。作業後は、枝打ちの達成感を感じながら、眺めの良い場所で相模湾を一望し、「ほっ」と一息。

午後は間伐材の活用例を知る一環として、クラフトで箸づくりを体験され、水源かん養・森林保全の大切さを感じていただきました。



(記、写真 森本 利弘⑰)

◆ 秦野峠林道植物調査活動
(紅葉・リンドウを愛でながら)

目 令和5年11月12日(日) 9:00~15:40 曇り
 場 やどりきゲート~秦野峠往復
 イ L 上宮田⑪、杉崎⑩、古舘⑬、飛田⑮、相澤⑮、久次米⑯、内田⑰、杉山⑰

全国的に気温が下がり寒い1日でしたが、防寒対策を万全にして出発しました。林道の中は秋本番!たくさん

の花や実、そして冬芽も観察する事ができました。色づき始めたコクサギの葉っぱを揉んでみんなで香りを楽しんだり、杉の球果の中の種をルーペで観察。種には小さな翼があり、もう飛び立つ準備ができていました。

アオツヅラフジの実も観察。実の中には化石のアンモナイトの様な形の種が隠れていて実に神秘的でした。

扇のように枝を広げたケヤキの観察では、ケヤキは子孫繁栄のために、小枝ごと種と葉っぱを一緒に落とす事、風にのせて少しでも遠くに運ぶ事を知り観察に対する視野が広がりました。道中は真っ赤に色づいたシラキの葉、ダンコウバイの黄葉、カエデやヌルデの紅葉も見事でした。



秋の山野草のリンドウは控えめに道端や岩肌に青紫色の可愛い花を咲かせてくれていました。途中で歓声があがったのは、岩壁の上の方に群生したイワシャジン。こんなに群生しているのは珍しいとの事です。その岩壁にはイワギボウシ、黄色のかわいいアキノキリンソウも咲いていました。ハート型の葉っぱをめくると隠れていたカンアオイの筒状の花。沢を通るたびに心地よい水の音、ジョウビタキのヒッヒッという冬を感じさせる鳴き声に癒されて菰吊橋で昼食。杉と檜のコラボは美しくまるで日本画の鑑賞をしているようで思わずうっとりしました。



昼食後は残り僅かの距離を観察しながら頂上へ到着しました。途中クマシデ、イヌシデ、アカシデ、サワシバも観ること

ができました。その他にも沢山の植物を観る事ができ、私にとっては初の秦野峠でしたが先輩の方々歩いてみると植生の豊かさに改めてきづかされ大変勉強になり、満喫できた1日でした。

(記 相澤 恵美利⑮、写真 杉崎 恒三⑩、飛田 尚弥⑮)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

森の案内人は12月～2月はお休み。3月から再開します。

「水源林ニュース」

12月～2月は休刊です。バックナンバーはこちらからご覧ください。<https://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

「参加者募集」

森の案内人☆特別企画
やどりきの森へ行こう！

～早春に咲くミツマタ観察で春を感じよう～

日時：2024年3月16日（土）
募集要領（別添チラシ参照）
https://www.forest-kanagawa.jp/lboshu/img-1/202403yadoriki_mori.pdf

森のなかまは過去号もご覧になれます。

（ホームページ）<https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
（HP担当：森本 利弘）

◇ **森のなかま原稿募集** ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>

笠原かずみ

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

【別冊】小国 一男

Mail: ka-oguni@ab.auone-net.jp

やどりき水源林問合せ：

（公財）かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

<https://ktm.or.jp/>

Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/>

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★ 海の子輪島市町野町の市川孝一君と山の子長野鬼無里村の松本君。小学生の時に恩師の縁でペンフレンドだった人です。高校一年の年賀状を最後に卒業し、長い年月をすぎましたが、能登半島地震からの無事を祈るばかりです。（松本）

★ ガチガチに締め上げたコルセット。昔読んだ『風と共に去りぬ』のスカレット・オハラみたいだなと、思わず笑ってしまいました。脊椎圧迫骨折はこの保存療法しかないそうです。元に戻れるのかという不安にむりやりフタをして、クマのように春の夢を見て寝ています。ふふふ。みなさま、お体を大事に！（竹内）

★ 新年早々大災害とそれに関連した大事故が起き「おめでとうございます」とご挨拶をしてよいものかどうか悩みます。被災者の方々の健康と一日も早い復興を祈りつつ、いつ何が起こるか分からないということを改めて実感しています。これから寒さが厳しくなりますが、長くなってきた日照時間に喜びつつ春への準備を進めていきたいと思えます。昨年引き継いだ「森のなかま」の編集作業を通じてインストラクター会と皆様を繋いでいきますので、今年もよろしく願いいたします。この場をさらに良いものにしていきたいと考えています。忌憚ないご意見もお待ちしております。

（河西）



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

ソシンロウバイ（素心蠟梅）

蠟細工のような透明感のある花と甘い香りで花の少ない早春に彩を与えてくれます。水源林のある寄ではロウバイ祭りが開催中。

<https://town.matsuda.kanagawa.jp/site/roubai10/>



年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替をご利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 河西 静夫

広報部： 黒川 敏史、松本 保、笠原 かずみ、長尾 晴子、

竹内 明彦、小林 照夫、小国 一男、小池 宗子

支援： 大原 正志、吉田 郁夫

森の案内人☆特別企画

無料☆要申込

やどいきの森へ行こう！

第3回テーマ：早春に咲くミツマタ観察で春を感じよう

- ・開催日：令和6年3月16日（土） 少雨決行
 - ・申込締切：3月2日（土） 受付開始：1月16日（火） 定員：50名（先着順）
 - ・場所：やどりき水源林（足柄上郡 松田町 寄）
 - ・集合：小田急小田原線 新松田駅北口に8時30分までにお越しください。
神奈川県森林インストラクターがご案内いたします。
- ※新松田駅～やどりき水源林ゲート間はバス送迎となります。（バス代は各自負担：片道690円）
- ・帰り：やどりき水源林ゲート 14：30 発 ⇒ 15：10 新松田駅着 解散

“ミツマタ”の群生をみながら、早春の風を胸いっぱい！



ヤマアカガエルの卵塊



(ミツマタ)



フサザク



ダンコウバイ

「運が良ければ
会えるかも!?
遊びに来てネ♪」
モモンガより



フサザクラ、ダンコウバイの花も見頃です。
中津川沿道の河津桜も咲いています。
水源林は春本番を迎える躍動感で一杯です。



河津桜

- 問合せ先*公益財団法人かながわトラストみどり財団 みどり森林課
TEL：045-412-2255 web サイト：www.ktm.or.jp
- 申込み先* NPO法人かながわ森林インストラクターの会
住 所：〒243-0018 厚木市中町2-13-14 サンシャインビル604
E-mail：k-inst0981@friend.ocn.ne.jp



フデリンドウ

参加者全員のお名前、住所、電話番号を記入の上、往復はがき、又はメールでお申し込みください。
多数応募の場合は、受付順とさせていただきます。